

週刊文春

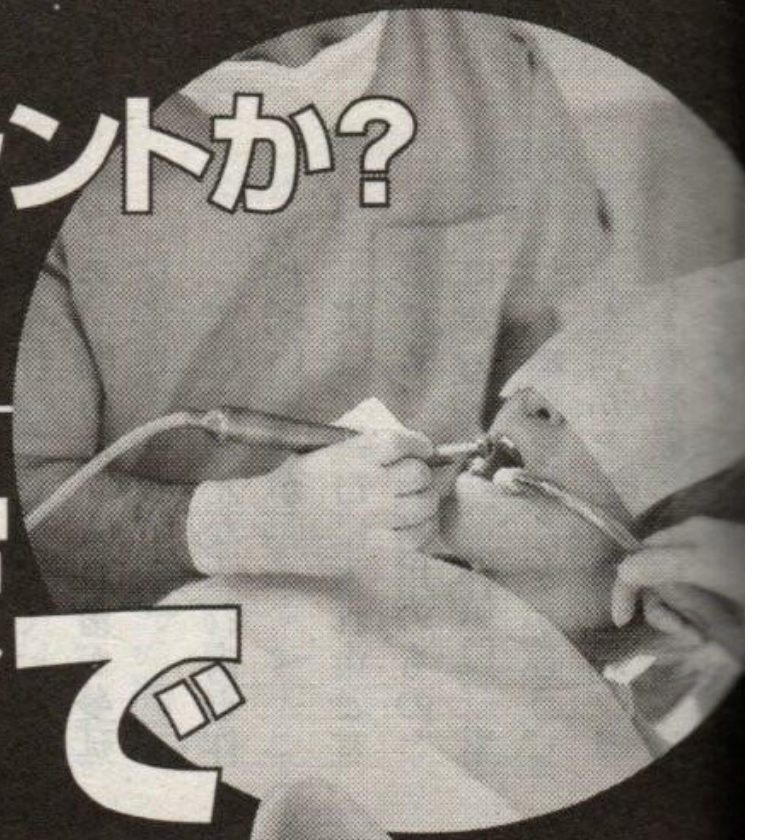
9月21日号 特別定価 480円



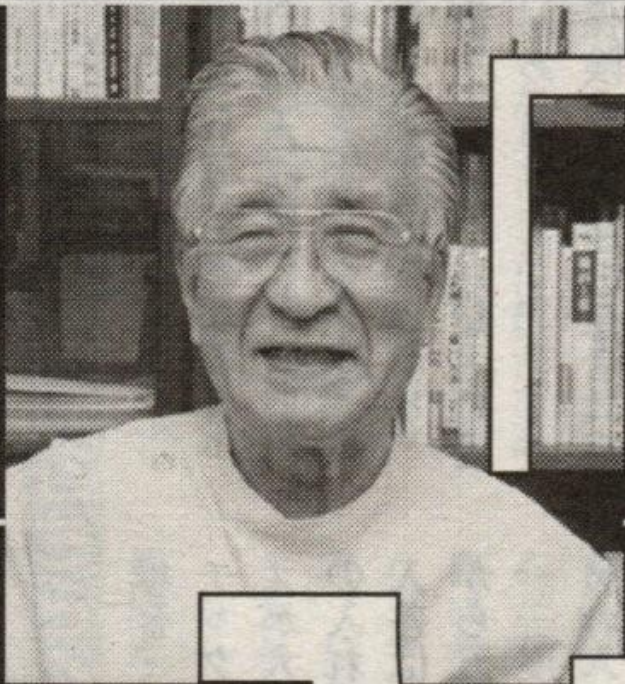


インプラント

入れ歯かインプラントか？ 保険か自費か？



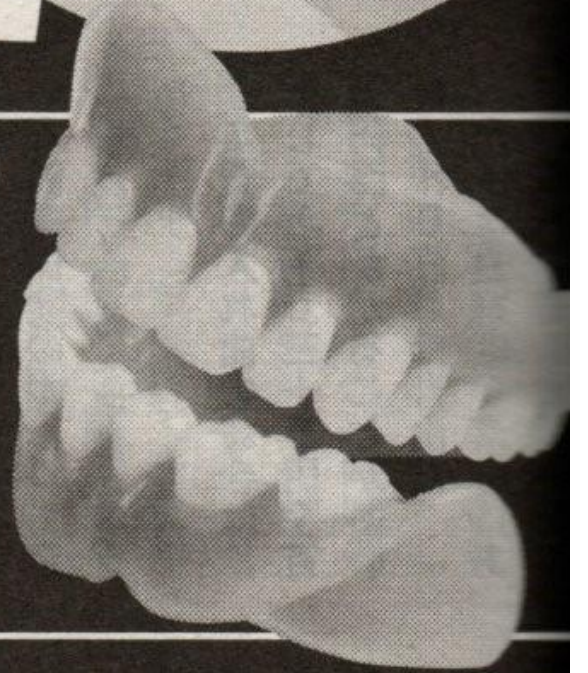
100歳まで



加藤氏

「噛める」

保険の入れ歯の利点は



入れ歯」

最終結論

医療ジャーナリスト

塩田芳享

高齢になると歯が悪くなり、食えることが億劫になる。その結果、食が細くなると、筋力の低下や栄養不足を招く。そして最終的に寝たきりや認知症になるという悪循環を生む。

そこで鍵を握るのが、いくつになっても「噛む力」を維持することである。

青汁で有名なキューサイ株式会社は、二〇二一年、百歳を超えても元気な百人を対象に「健康長寿の秘訣」を調査した。その調査でわかったのは、「元気な百歳の八割が噛める、歯」を持っていたことだった。

さらに、調査結果を細かく見ていくと、自分の歯だけで食べている人は三割ほど。七割が入れ歯で、総入れ歯が五五%もいた。

つまり、自分の歯が無くなってしまっても、噛める入れ歯、さえあれば、健康長寿を達成できるのだ。

健康長寿の第一歩は自分で噛んで食べることだ。ところが肝心の入れ歯が合わないという悩みも。医療現場を取材してきたジャーナリストが、歯科医療の最前線を徹底調査。そこから見えた最良の「噛める入れ歯」とは――。

これまで、日本歯科医師会などは、八十歳でも二十本以上の自分の歯を残そうという「8020運動」を行ってきた。しかし、今年発表された厚生省の調査結果によれば、八十歳から八十四歳で、二十本以上の歯が残っている人は、四五・六%と半数に満たない。八十五歳以上は、その割合がさらに下がっていく。

人生百年時代において、「噛める入れ歯」は万人に必須の道具なのだ。

ところが、入れ歯に関しては、こんなデータもある。「国民生活基礎調査」によると、入れ歯利用者の約八割が噛むことに不便を感じているという。食べるための入れ歯なのに、食べる時には外してしまう、という本末転倒の行動をとる人も少なくない。

本来なら購入する必要がないはずの「入れ歯安定

しおだよしたか 医療ジャーナリスト・演出家。1957年生まれ。専門は、高齢者医療・口腔など。著書に『口腔医療革命 食べる力』（小社刊）『医療に頼らない理想の最期』（日新報道刊）など。母親と自身の体験から、「入れ歯」の取材を続けている。



太田氏

のは、技工士にしっかりと指示をすることを含めた歯科医師の技術力の問題なのだ。

この技術面で、日本は大きな危機に瀕していると加藤氏は憤る。

「歯科大学では、一般的な入れ歯の作り方を教えるだけの状態が続いています。激増する超高齢者世代に合う入れ歯を作るための技術を教えていないのです」

加藤氏や西田氏によれば、四十年ほど前から、歯科医師国家試験では、入れ歯作製の実技試験がなくなっていました。そのことも危機を招いている理由の一つだそう。

実技試験が無くなるのと時を同じくして、日本は超高齢化社会に突入した。一九八〇年代半ばに女性の平均寿命が八十代となり、二〇一三年に男性の平均寿命

鈴木氏

も八十代となった。

だが、歯科大学での入れ歯の技術の教育は、ほとんど変わらなかった。鹿児島県の太田歯科医院院長の太田博見氏は、こう解説する。「アメリカでは総入れ歯作りは専門技術とされ、誰でもできる簡単な技術として扱われてはいません。日本で十分な技術を持っている人は、卒業後に自らしっかりと勉強した人だけです。大学の教育だけではまったく不十分なのです」

安いインプラントには罠が

加藤氏は、その技術を伝えるために加藤塾を開き、これまでに二百名を超える歯科医に技術を伝えてきた。保険の入れ歯でも、この技術は使われており、確実に噛めるものが作られている。

しっかりとした技術があれば、「噛む」という最も重要な機能面に関しては、保険でも自費でも全く差はないのである。

近年、台頭しているインプラントはどうだろうか。

前出の加藤氏は、超高齢者や認知症患者に向けた入れ歯として「デンチャーペース義歯」を開発した。

歯茎がすり減ると、入れ歯で噛んだときに、すき間が生じ、上手く噛めない原因となる。そのすき間をふさぐために、入れ歯と口腔の接着部分（床と呼ばれる部分）を通常より厚くする。その人の口腔機能に合わせ、本来あるべき天然歯の位置に入れ歯を作るのである。

インプラントは、顎の骨自体にチタン合金などでできた人工歯根を埋め込むもので、普通の入れ歯とは違い、大掛かりな手術が必要となる。

だが大きな利点もある。入れ歯よりも明らかに噛めると言われ、自分の歯と同様に歯ブラシ、歯間ブラシなどで清掃することもできる。見た目にも、自分の歯と変わらないものが多い。しかし、最大の問題は、値段にある。

インプラントは、保険が適用されず、自費入れ歯よりもさらに高価なのだ。相場は一本で三十万円〜五十万円。総インプラントは考えば、部分入れ歯との組み合わせになることが大半だ。

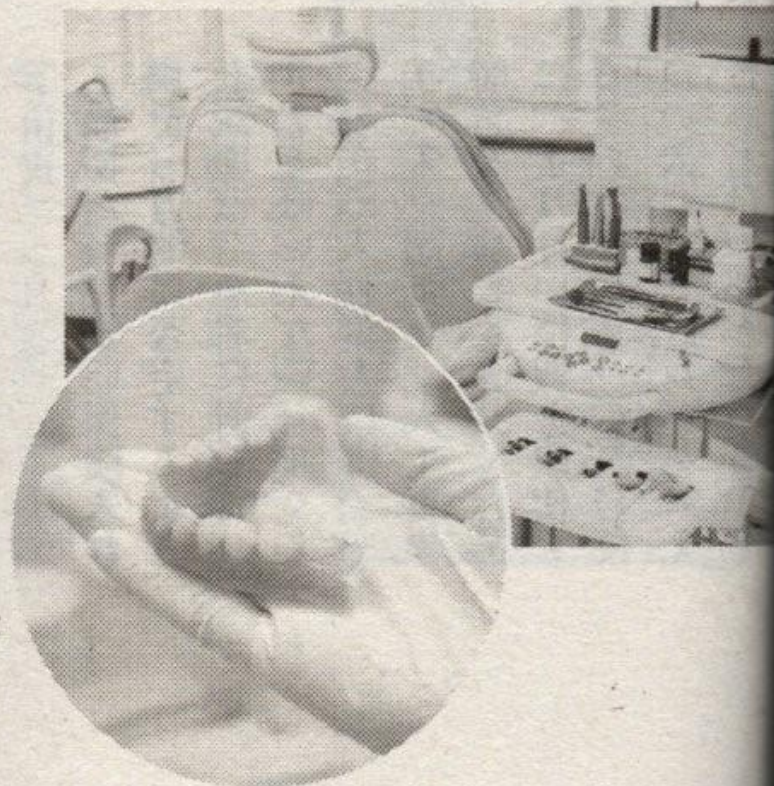
その値段の壁を低くしようとして一本十数万円ほどの安価なインプラントも生まれている。

「この値段であれば、一、二本インプラントにしてみよう」という高齢者も多く、歯科業界は今や、インプラントのダンピング合戦の様相を呈している。

しかし、一本十数万円ほどの安物のインプラントは、深刻な病気を引き起こす可能性もある。

元昭和大学歯学部口腔外科教授で、現在は東京銀座シンタニ歯科口腔外科クリニック院長の新谷悟氏が警鐘を鳴らす。

「インプラントには、インプラント周囲炎」という歯周病にかかるリスクがある。これは、インプラントに接触した部分から血や膿が出るようになり、最後は



保険の入れ歯はどこでも扱っているが

「週刊文春」定期購読のお申し込みはこちら



(左から) 西田氏、中澤氏

ジカルガイド
と違って、取
りつける位置
を正しくシミ

ユレーション
する工程が必
要とされま
す。それを行
った上でしっ

かりと埋め込
めば、インプ
ラント周囲炎
のリスクは減
る。ところ

が、料金を安くするため
に、その工程を省いてしま
う歯科医が多いのです」
(同前)

また、取り付け費用は安
くしておきながら、メンテ
ナンス時に高額な別料金を
請求する場合もあり、格安
インプラントに飛びつきの
は危険なのである。

保険入れ歯、自費入れ
歯、インプラントの三つに
ついてメリットとデメリット
が見えてきた。

お金があれば、見栄えの
よい自費入れ歯を選ぶこと
も悪くはない。しかし、高
いお金を払ったからといっ
て、必ずしも噛める入れ歯

にはならない。技術さえあ
れば保険で「噛める入れ
歯」を作ることにも充分可能
なのだ。

しっかりと噛める入れ歯
を作れる歯科医を探すには
どうしたら良いのだろうか？

歯科医たち自身に、良質
な歯科医を見分ける方法を
尋ねた。

まず、「どれだけ保険入
れ歯の作製に手間をかけて
いるかを聞いてみて欲し
い」と指摘するのは、九人
の歯科医を擁する群馬県・
利根歯科診療所の院長中澤
桂一郎氏だ。

「入れ歯は、丁寧に型取り
をして、念入りに調整をし
ていかないと合わないもの
です。大学では①概略の型
どり(一次印象) ↓ ②精密
な型どり(二次印象) ↓ ③
かみ合わせ ↓ ④形合わせ ↓
⑤口に装着と五つの工程を
するように習うのですが、
実際には、②と④の工程を
省く歯科医が非常に多いの
です」

一つの入れ歯を作ること
で、歯科側に入る報酬は上
下の総入れ歯でも約五万

円。これを、実際に入れ歯
を制作する「歯科技工士」
と、七・三の割合で分ける
ことになる。歯科医の取り

分は三の方だからわずか一
万五千円だ。報酬があまり
にも安いいため、工程を少な
くして、手間を減らす歯科
医が増えてしまうというの
である。

「どのくらい時間がかかる
のか？」と聞いて「すぐに
出来ませう」とか「うちは他
よりも早いです」と返され
たら気をつけた方が良いか
もしれません」(同前)

前出の加藤氏も、時間の
点を強調する。

「作って終わり」という歯科医も

次のポイントは、入れ歯
が完成した後に、実際に食
べるところまでを確認して
くれる歯科医かどうか。

この点を強調するのは、
福岡県の篠栗病院で高齢者
の歯科診療をしている鈴木
宏樹氏。年間延べ三千五百
人以上の入れ歯を診ている

鈴木氏は、保険、自費問わ
ずあまりにも「噛めない入
れ歯」が多いことに驚いた

「そもそも入れ歯は、口に
異物を入れる訳です。入れ
てすぐにピツタリとはまる
ということはありません
ん。口の機能が入れ歯に慣
れるまでには、少なくとも
半月から一カ月はかかるも
のなのです」

患者側も意識改革をする
必要があるだろう。「早く
入れ歯を作って欲しい」

「何度も通わせる歯科医は
嫌だ」という要望が、工程
を減らすことにつながった
側面も否定できない。噛め
る入れ歯を作るには、時間
がかかる覚悟することも
大切なのだ。

一人だ。

「世の中には、噛めない入れ
歯が多いのは、歯科医側が、
作って終わりだと考えて
いるからです。流れ作業で

は、よい入れ歯にはならな
い。実際に食べるところま
で歯科医が継続して診るこ
とが、何より必要なです」

鈴木氏は、保険の場合で
も、入れ歯が出来上がった
後に、必ずテストフードを

食べてもらう。最もよく使
うのは、よく噛まなければ
食べられない煎餅だとい
う。煎餅をしっかりと噛ん
で食べるところを確認する
ことが、入れ歯づくりのゴ
ールになるというのだ。

入れ歯づくりでこんな工
程が当たり前に行われるよ
うになれば、「噛めない入
れ歯」は激減するように思
える。

最後に患者への治療の説
明が公平であることもつけ
加えたい。

「歯の治療を行う際に、保
険入れ歯と自費入れ歯、そ
してインプラントのメリッ
トとデメリットをしっかりと
と説明してくれる歯科医が
信頼できると思います」
(太田氏)

最初から、安い保険入れ
歯を一方的に否定するよう
な説明は、患者に対してフ
エアとはいえない。

現在の入れ歯人口は、三
千万人を超えた。人生百年
時代を健康に生き抜くため
に、より良い情報を駆使し
て、あなたにとっての「最
良の入れ歯」は何かを考え
てみてはいかがだろうか？